

衛生研究所夏休み体験教室の開催結果について

はじめに

広島市衛生研究所での初めての試みとして、小学生と保護者を対象に研究所施設を活用した学習プログラムとして「夏休み体験教室」を開催した。

この体験教室をとおして、小学生には理科への興味を、保護者には衛生研究所の業務の理解と生活衛生意識の向上を図ることを目的とした。

方法と結果

1 日時

平成19年(2007年)7月29日(日)

9時30分～12時00分

2 場所

広島市衛生研究所

3 参加者

小学校4,5,6年生とその保護者20組(計45人)

4 内容

参加者を3班に分け、(1)から(3)の学習プログラムにより体験学習を実施した。体験学習時間割の一例を図1に、体験学習風景を図2～5に示した。

(1) 食品添加物や遺伝子組み換え食品

(担当：生活科学部)

- ・天然着色料と人工着色料の違い
- ・自然食品と遺伝子組み換え食品の見分け方

(2) 電子顕微鏡で見る細菌の世界

(担当：生物科学部)

- ・食中毒と細菌の関係
(食中毒の原因細菌の種類など)
- ・手洗いと消毒の大切さ
- ・電子顕微鏡での食中毒細菌の観察

(3) 臭いの感じ方

(担当：環境科学部)

- ・臭いの性質
(臭いの種類や濃度、人の感じ方など)
- ・ろ紙に塗布した臭いの判別



図2 開校式風景

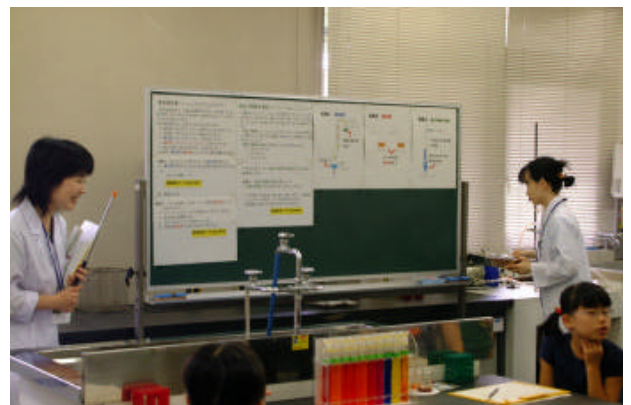


図3 食品添加物や遺伝子組み換え食品
(担当：生活科学部)

9時30分	開校式
9時40分	第1時限(食品添加物や遺伝子組み換え食品)
10時10分	第2時限(臭いの感じ方)
10時40分	第3時限(電子顕微鏡で見る細菌の世界)
11時10分	ゲームタイム
11時45分	閉校式
12時	解散

図1 体験学習時間割(一例)

5 成果,目標,実績等

(1) 期待した主な成果

小学生には,理科に対する興味を持たせ,保護者には,食品の安全や環境を守るための試験検査の重要性の理解および生活衛生意識の向上を図る。

(2) 成果を計るための指標と目標数値

体験学習終了後,小学生にアンケートを実施し評価した。また,保護者には,体験教室への自由意見を依頼した。

指 標: アンケートで「参加して良かった」と回答する小学生の割合

目標数値: アンケートの結果,「参加して良かった」との回答が80%以上

(3) 実績と評価

a 実績

「参加して良かった」と回答の割合は100% (回答者19人) であり目標数値を達成した。

B 評価

初めての開催であったが,小学生及びその保護者が各分野の実験に熱心に取り組み,教室に活気が見られた。また,保護者から実験内容以外にも食品や環境に関する質問があり,高い関心がうかがわれた。また,アンケート結果等から,教室での実験時間の不足や小学生4年生と6年生での知識の差による説明の難しさなどの課題が見つかり次回開催への参考となった。

来年以降も開催することにより,より多くの参加者が試験検査の重要性や理科に対する興味を持つことを期待する。



図4 電子顕微鏡で見る細菌の世界
(担当:生物科学部)



図5 臭いの感じ方
(担当:環境科学部)